

付着生物ラーバ情報

秋から冬生まれのムラサキイガイのラーバはほとんど付着しません

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは奥内沖で10月29日に1.7個体/m³、11月4日に0.8個体/m³、久栗坂沖で10月30日、11月1日ともに1.1個体/m³、10月22日に野辺地沖で0.8個体/m³、10月29日に川内沖で1.6個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称: カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは奥内沖で10月29日に11.7個体/m³、11月4日に17.5個体/m³、久栗坂沖で10月30日に1.1個体/m³、11月1日に5.0個体/m³、野辺地沖で10月22日に0.8個体/m³、川内沖で10月29日、11月1日ともに11.7個体/m³見られました(表1)。

(3) サンカクフジツボ (通称: アカガキ)

ラーバは10月29日の奥内沖と10月30日の久栗坂沖とともに1.7個体/m³、久栗坂沖で11月1日に1.1個体/m³、川内沖で10月29日に1.6個体/m³、11月1日に4.7個体/m³見られました(表1)。

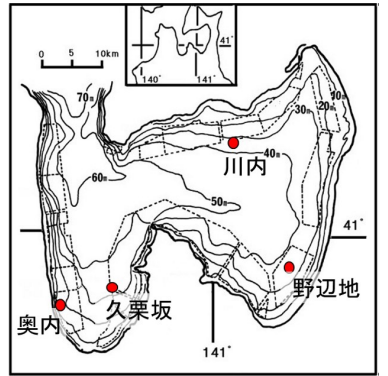


図1 付着生物ラーバの調査地点

表1 ラーバの出現状況

調査地点	調査月日	単位: 個体/m ³		
		ユウレイボヤ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ
奥内沖	R6.10.29	1.7	11.7	1.7
	R6.11.4	0.8	17.5	0.0
久栗坂沖	R6.10.30	1.1	1.1	1.7
	R6.11.1	1.1	5.0	1.1
野辺地沖	R6.10.22	0.8	0.8	0.0
	R6.11.4	0.0	0.0	0.0
川内沖	R6.10.29	1.6	11.7	1.6
	R6.11.1	0.0	11.7	4.7

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層の水温は17℃前後と、ユウレイボヤが産卵する水温になっています。10月以降の奥内沖と野辺地沖の累積ラーバ出現数は5.0個体/m³以上と多くなっています。12月にかけてラーバが本格的に出現することから未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している海域では親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。

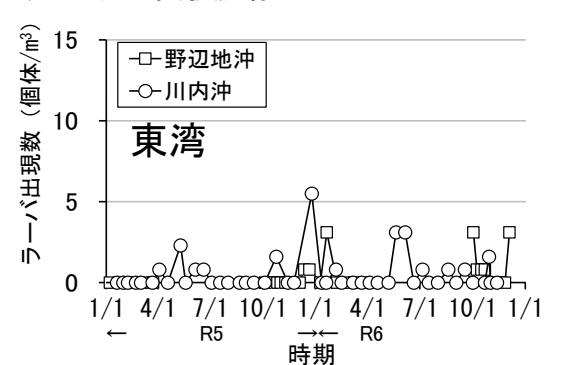
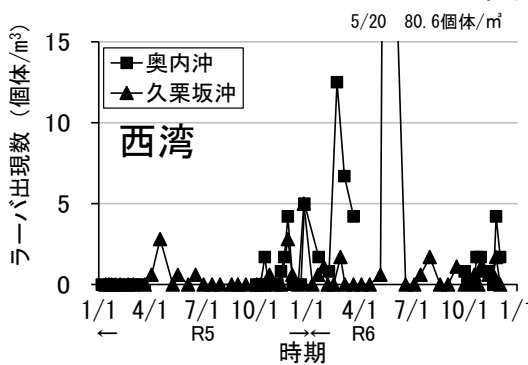


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和5年1月~令和6年11月)
・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

(2) ムラサキイガイ

ラーバがわずかながら出現していますが、秋から冬生まれのラーバはほとんど付着しないことが分かっています。

(3) サンカクフジツボ

付着直前のラーバが7、8月に多数出現したことから、来春の耳吊り作業の効率が低下すると思われる。

